

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 12月20日 11:34AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 34,000～42,000 円

[NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 38,500～43,500 ドル

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 18,000～19,900

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000～158.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～109.000

エリオット波動とは

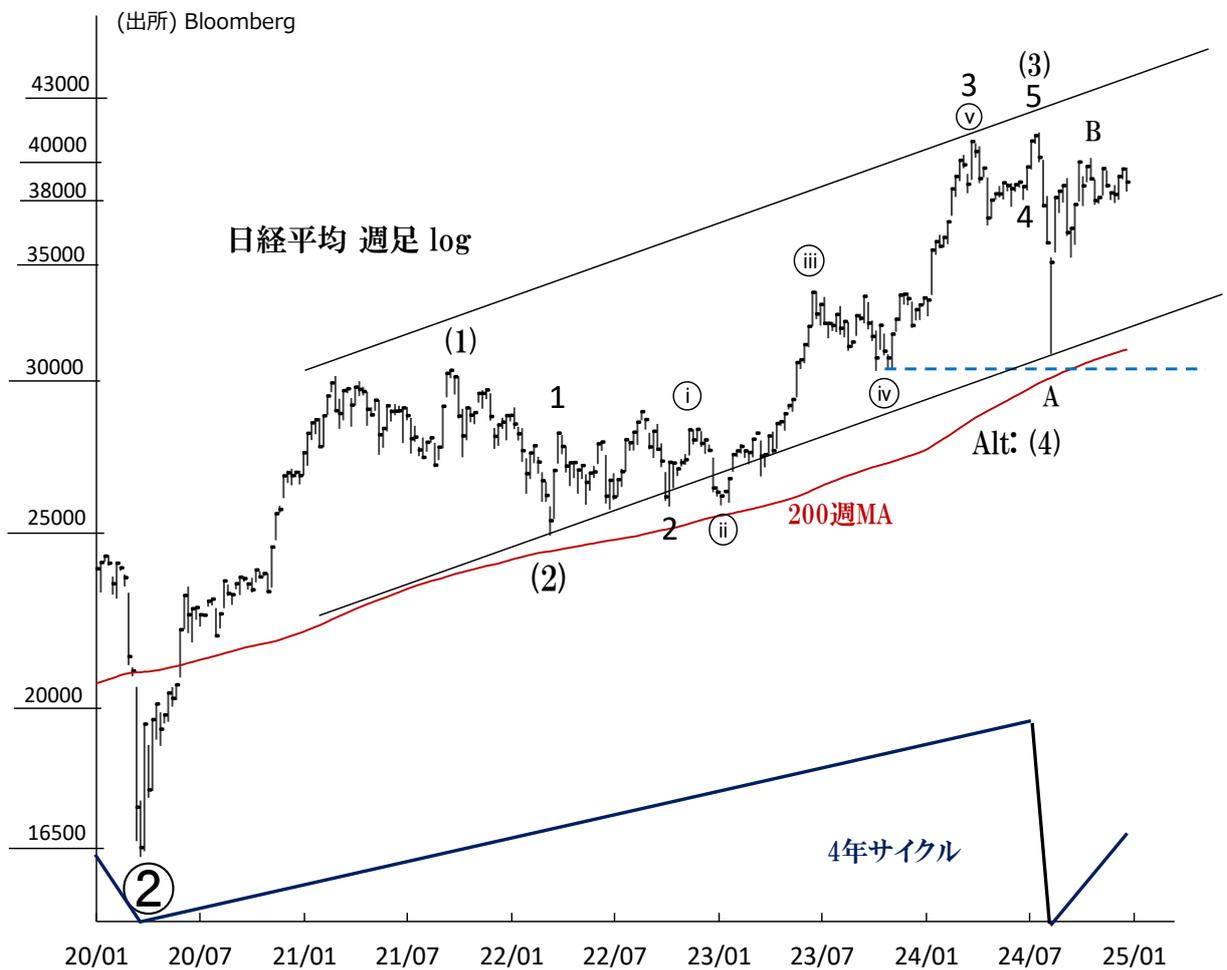
株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

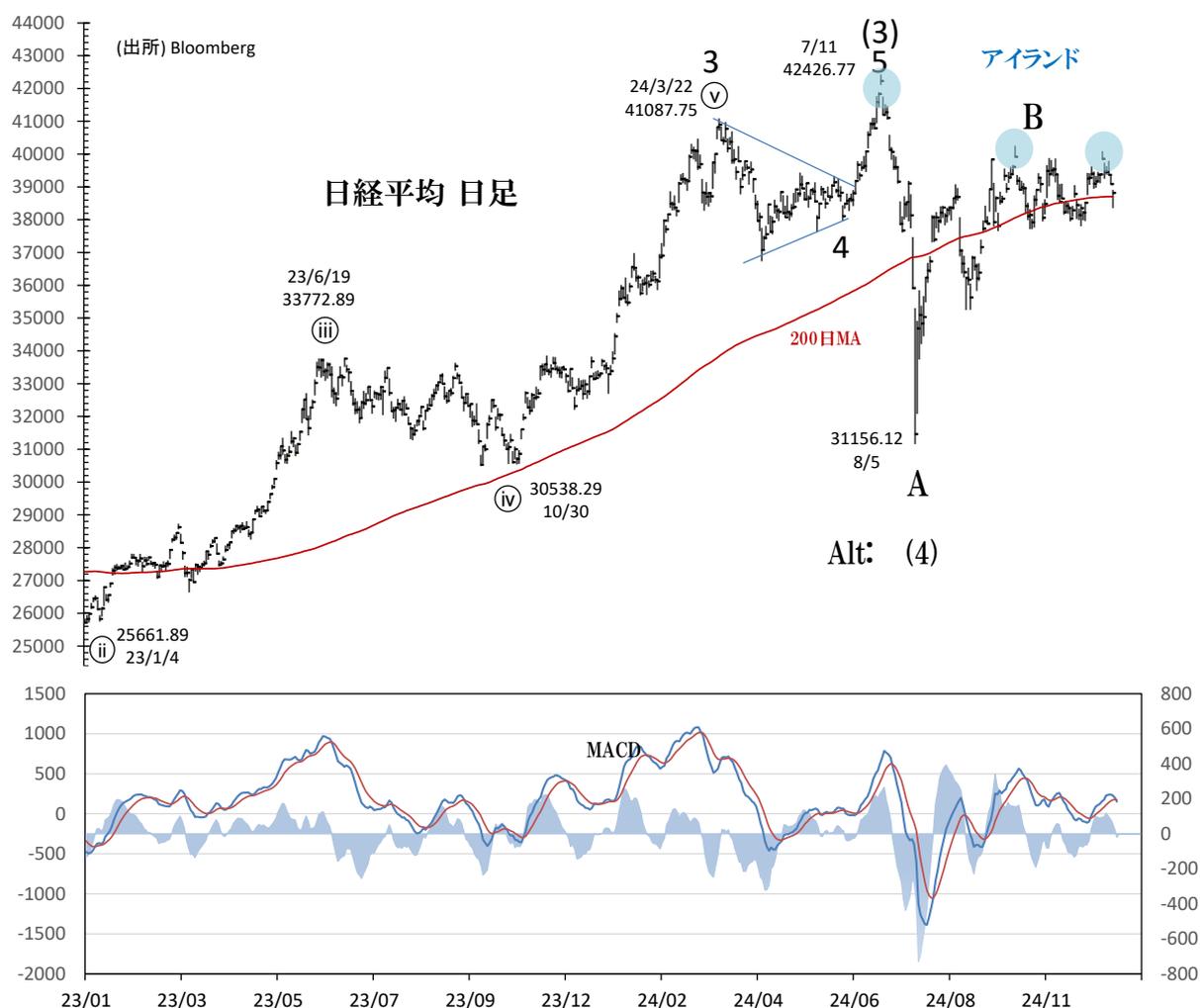
42,426 円(7/11 高値)以来の第(4)波(インターミディエイト級)中 A 波は、31,156 円(8/5 安値)を以て終わったとみられます(4 年サイクル底)。

あるいは、8 月安値から既に第(5)波の上昇が進行中かもしれません。

どちらの見方によっても、来年の日経平均は 42,426 円を上抜き、最高値を更新する可能性が高い、と思われれます。第(5)波ターゲットとして[4 万 3000 円-4 万 5000 円]を想定しています。

もっとも第(5)波上昇を以て、5 年間にわたる強気相場(プライマリー第③波)は完成します。そこからしばらくの間はプライマリー第④波による停滞局面を迎えるでしょう。

日経平均予想 EPS の持ち直し基調は続いています。12 月 19 日の EPS は 2475 円、10 月 5 日の 2514 円が視野に入っています。今後の動向を引き続き注目しましょう。



【日足 エリオット波動分析】

(プリファード(優先)カウント)

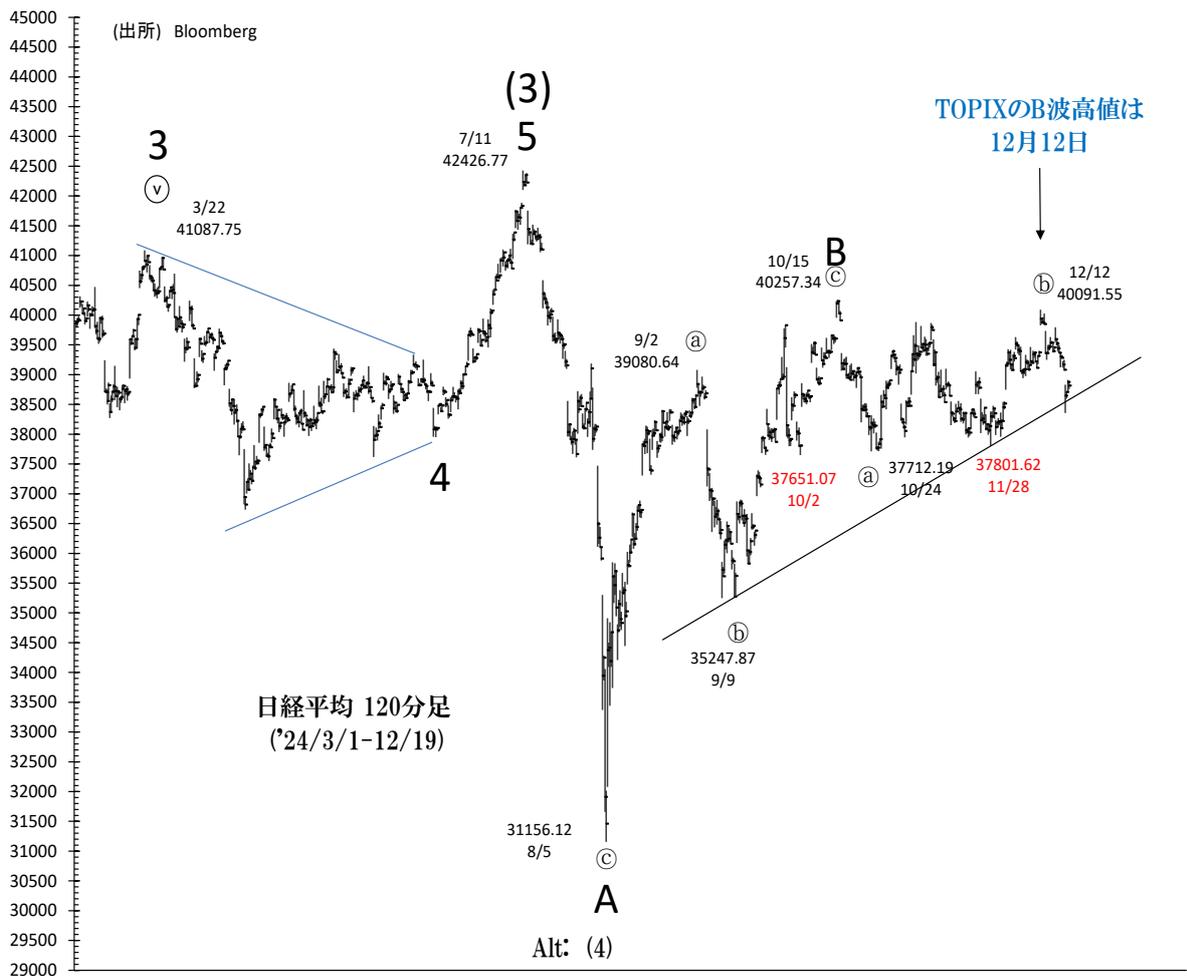
31,156 円(8/5 安値)からの、第(4)波中 B 波によるリバウンドは、40,257 円(10/15 高値)を以て終了した、とみられます。

12 月 12 日の「アイランド」が暗示していたように、日経平均は短期的な下げ局面に入った、とみられます。1 月中にも 35,247 円(9/9 安値)を下回り、8 月「一番底」に次ぐ「二番底」を打つと思われれます。

その後は数カ月間のもみ合いとなりますが、その間に日経平均は上昇マグマを蓄え、もみ合いを上放れるイメージです。それは第(5)波による、当面最後の上昇トレンドとなるでしょう。

(オルタナティブ(代替)カウント)

31,156 円(8/5 安値)は第(4)波の終点底であり、そこから第(5)波による上昇が進行しています。この見方によると日経平均は「二番底」を付けることなく、じり高基調を続けるでしょう。そんな中、25 年の前半にも高値更新がありそうです。



【時間足 エリオット波動分析】

当面の日経平均の見通しは以下の二通りです。

[プリファード(優先)カウント] 35,247 円を下回り、「二番底」を形成

7 月高値以来の第(4)波は[トライアングル(A-B-C-D-E)]を形成中です。

31,156 円(8/5 安値)からの B 波(@-b-©)によるリバウンドは 40,257 円(10/15 高値)で終わり、そこからは C 波(@-b-©)による下げが進行中です。

19 日には一時 38,385 円まで下げましたが、その後は下げ幅を縮小しました。9 月と 11 月の安値同士を通るサポートラインが効いています。

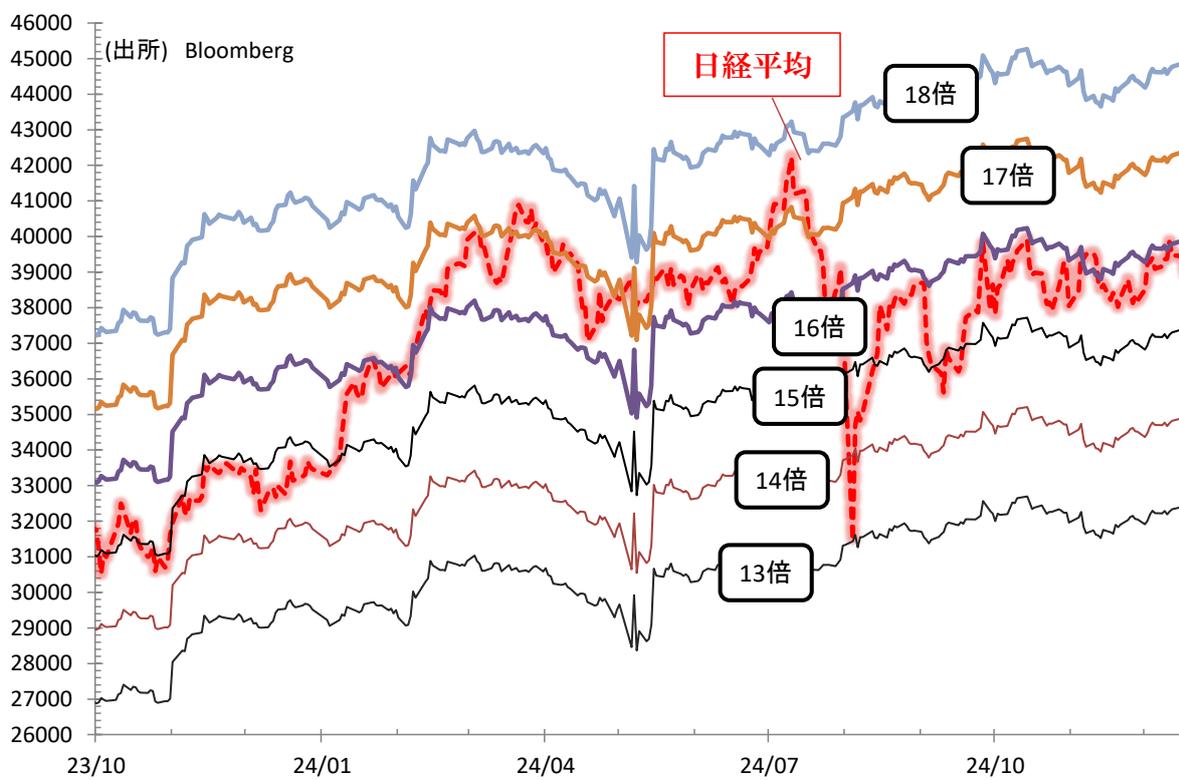
今後 37,801 円(11/28 安値)を下抜くと、C 波による下落基調が鮮明になるでしょう。最終的に C 波は 35,247 円(9/9 安値)を下回り、8 月安値に次ぐ「二番底」を付けるでしょう。

[オルタナティブ(代替)カウント] 第(5)波は「エンディング・ダイアゴナル」

31,156 円(8/5 安値)からは第(5)波による上昇であり、そのパターンは波の重複が目立つ「エンディング・ダイアゴナル」です。

今後 42,426 円(7/11 高値)を上抜くと TOPIX との弱気ダイバージェンスが解消され、強気モードが戻ってくるでしょう。

[予想 PER 別の日経平均水準]



NYダウ



【日足 エリオット波動分析】

22年10月安値(28,660ドル)以来の上昇(B)波は、45,073ドル(12/4高値)を以て完成した可能性が高い、とみられます。そこから(C)波による下落に入った、と思われます。

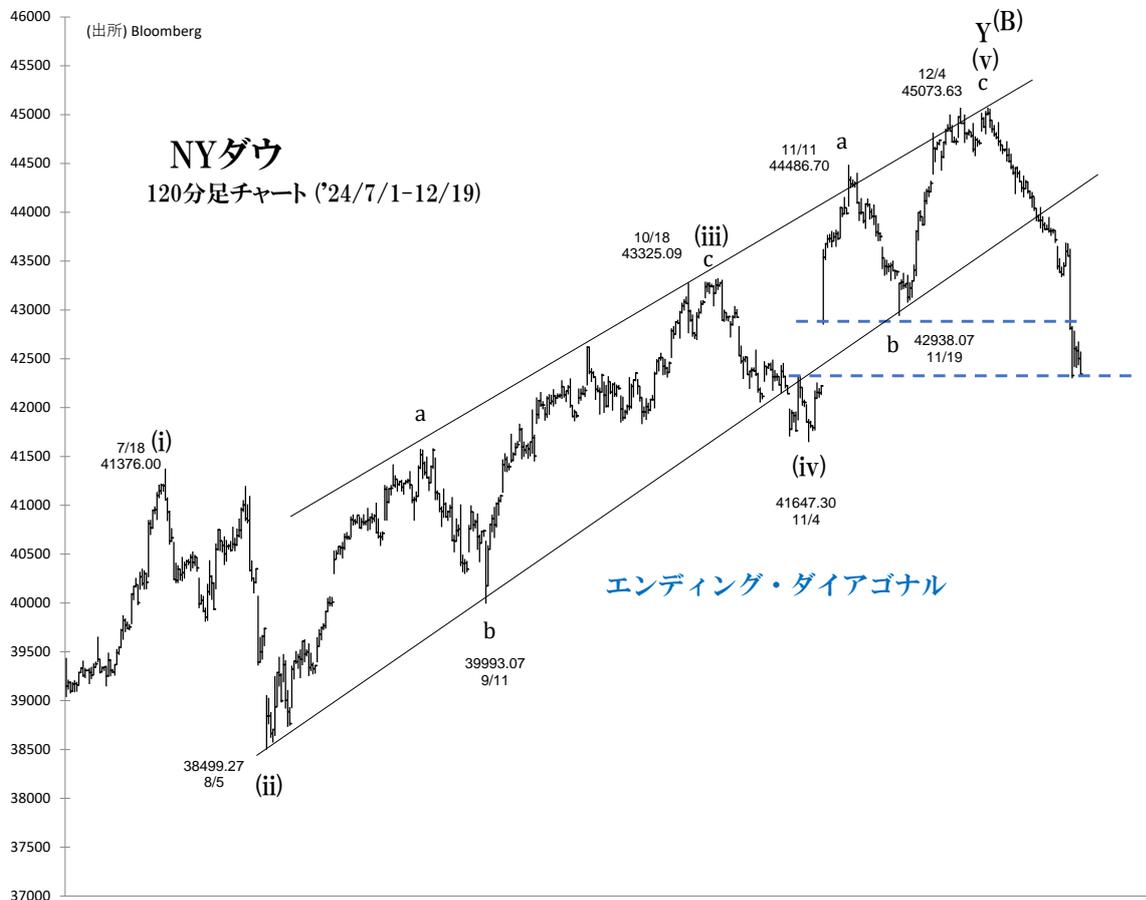
12月18日までNYダウは10日続落となり、1974年10月4日までの11日連続安以来、50年ぶりの長さを記録しました。最高値45,073ドル(12/4)から足元までの下げ幅は2800ドルに迫っています。

ダウの三指数では高値を付けた順に、輸送株(11月25日)、公共株(11月27日)、そして工業株(12月4日)です。S&P500は12月6日、ナスダック100とナスダック総合指数は12月16日に高値を付けました。

このように、指数ごとの高値日にタイムラグがあるとき、相場全体は天井を付けることが珍しくありません。

注目された42,938ドル(11/19安値)を大きく下抜いたことにより、4月から続いてきた、高値と安値が共に切り上がるパターン(Higher-Highs, Higher-Lows)が途切れしました。これにより上昇トレンドの終了と、(C)波による下落トレンド開始の可能性が高まりました。

(C)波に入ったのであれば、それは先々、22年10月以降で一度もなかった大きなスケールの調整に発展していくでしょう。



【時間足 エリオット波動分析】

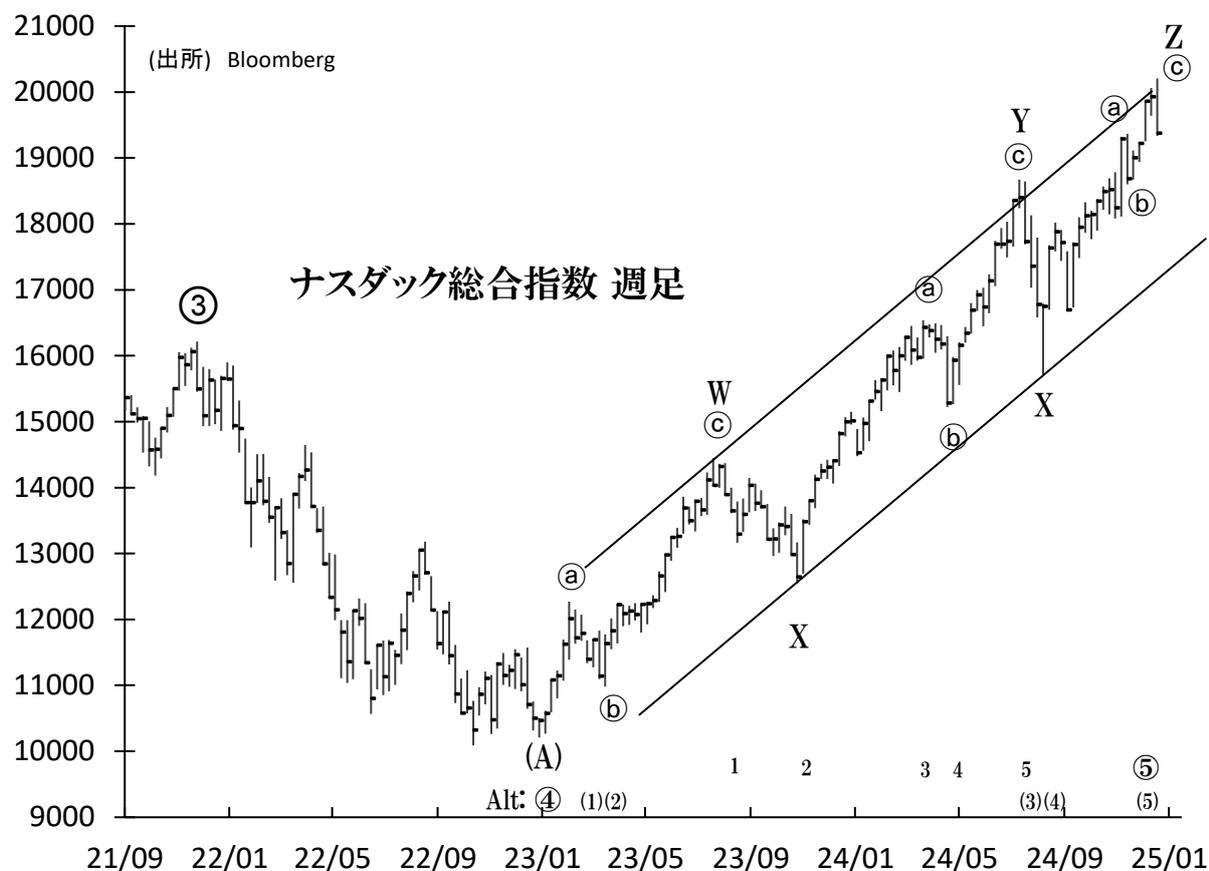
12月18日には一時42,300ドルまで下げました。米大統領選での結果を受けて生じた11月5日～6日のギャップ(42,258ドル～42,850ドル)埋めが目前に迫っています。

仮にギャップが埋められると「トランプ・トレード」終了が証左され、より大きな調整に—(C)波の調整に—備える必要があるでしょう。

実際、短期的にも41,647ドル(11/4安値)を試す局面となっておかしくないでしょう。

さらに41,647ドル割れをトリガーに、37,611ドル(4/18安値)＝ダイアゴナル始点を指す、下振れの動きを強めるでしょう。

ナスダック



【週足 エリオット波動分析】

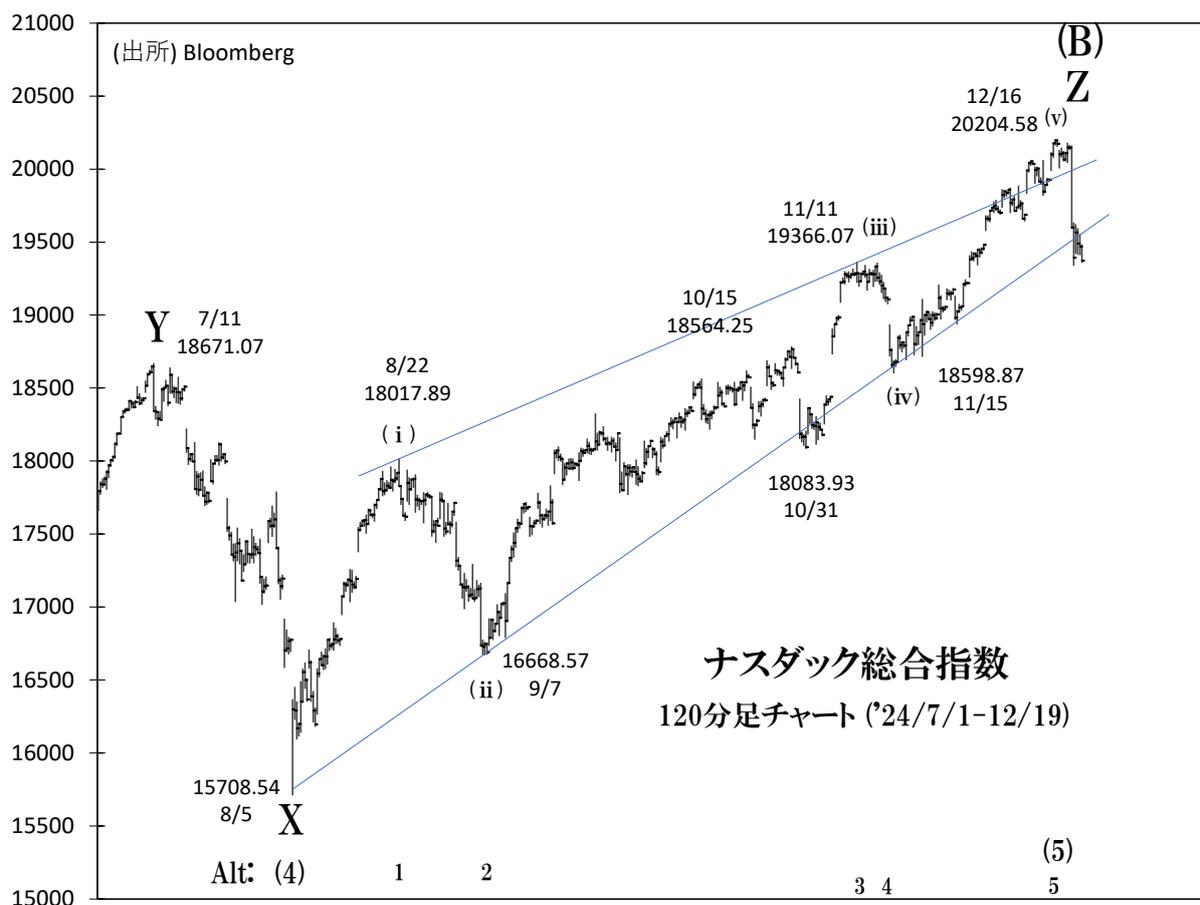
22年12月安値(10,207)以来の上昇は、④-(B)波に位置付けられます。パターンは[トリプル・ジグザグ(W-X-Y-X-Z)]です。

プリファード(優先)カウント

20,204(12/16 高値)を以て、④-(B)波は完成し、(C)波による下落入りの可能性を指摘できます。(C)波は(A)波(21年11月~22年10月、高値から37%調整)と同等か、それ以上のスケールの下げになるでしょう。

オルタナティブ(代替)カウント

22年12月安値からの「五波動」による上昇第⑤波が終わった可能性があります。これによれば25年以降ナスダックは、優先カウントよりも深く、長い調整局面を迎えるでしょう。



【時間足 エリオット波動分析】

15,708(8/5 安値)からの[ダイアゴナル]による上昇パターンは、20,204(12/16 高値)を以て完成したとみられます。上昇の最終局面において、8 月-11 月の高値を通るレジスタンスラインを上抜きましたが、それは天井暗示のスローオーバー(throw-over)でした。

12 月 18 日には急落し、この日の安値(19,336)は **12 月 4 日のギャップ(19,486-19,575)を埋め切り、そしてダイアゴナル下辺を割り込み始めています。**

当面 1 万 9000 水準を打診するでしょう。

もし 1 万 9000(8 月安値からのサポートライン水準)を明確に下抜く動きが生じると、下げ基調は一段と強まりそうです。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028年4月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。なお24年7月の161.938円は、15年6月・125.860円から9年目に付けた「8年サイクル高値」とみられます。

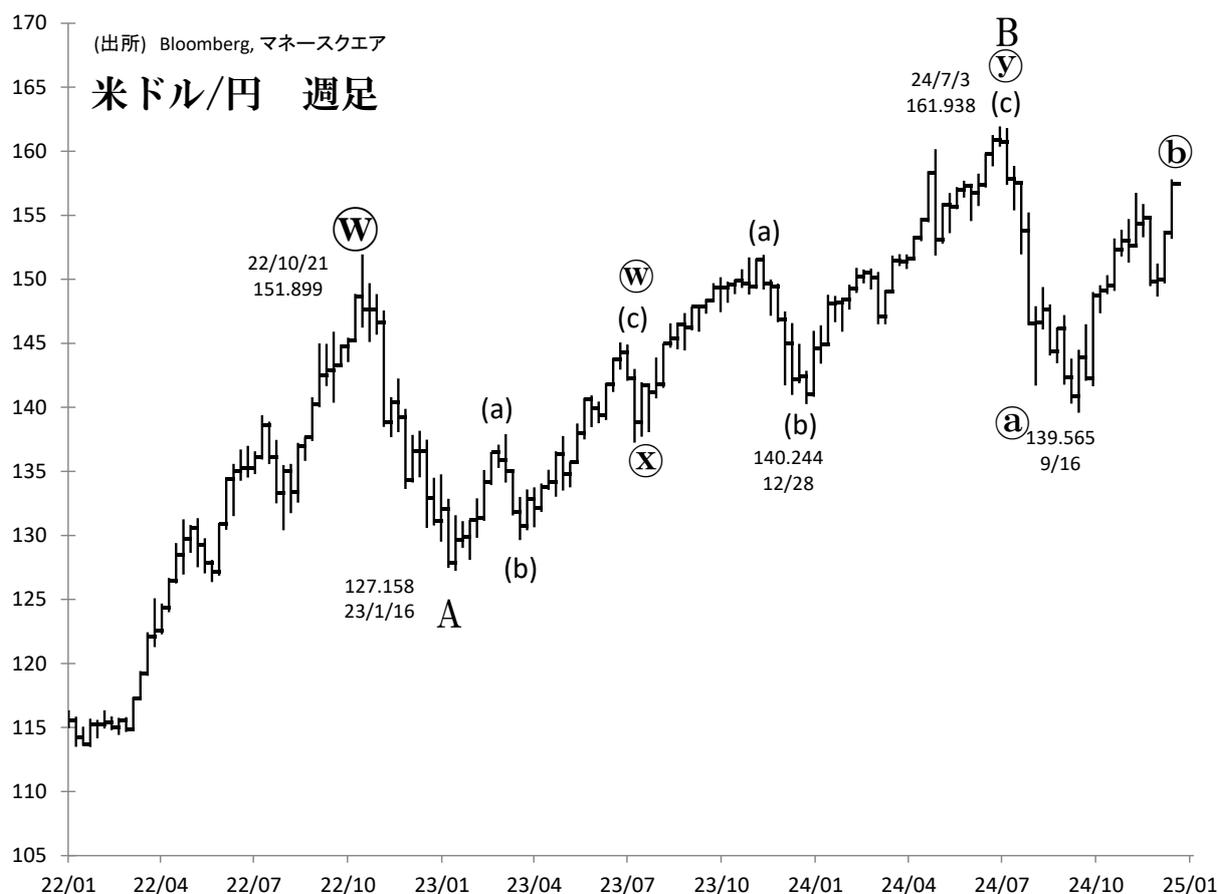
22年10月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。なお①のもうひとつのパターンとして[ランニング・フラット]もあげられましょう。

①の場合、現行C波はA波安値(127.158円)を下回りません。C波は三波で構成され、2011年からの上昇チャネルのセンターライン(↑①)が強いサポートになるでしょう。

12月中、①の水準は135.400円に位置します。

②の場合は、現行C波(五波構成)はチャネル下限(↑②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。12月を通じ、②の水準は115.520円となっています。

なお足元水準は、2011年からの上昇チャネル上限を上回っていますが、このようにドル/円が長期トレンドから上方を逸脱するのは今回3回目です。過去2回のケースでは(円買い介入によって)極端な円安はまもなく修正されており、今回も同様の動きとなるかに注目です。



【週足 エリオット波動分析】

161.938 円(7/3)からは、C 波によるドル安・円高です。この C 波は、三波構成(Ⓐ-Ⓑ-Ⓒ)で進展していく、と思われます。

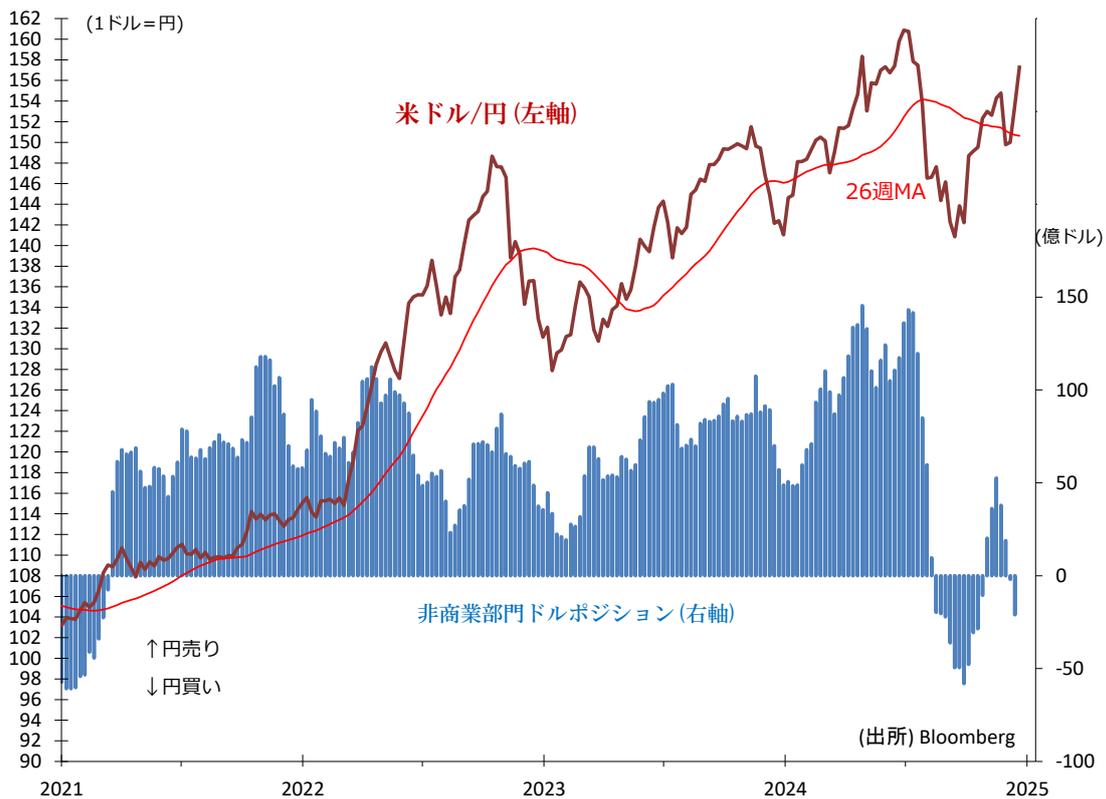
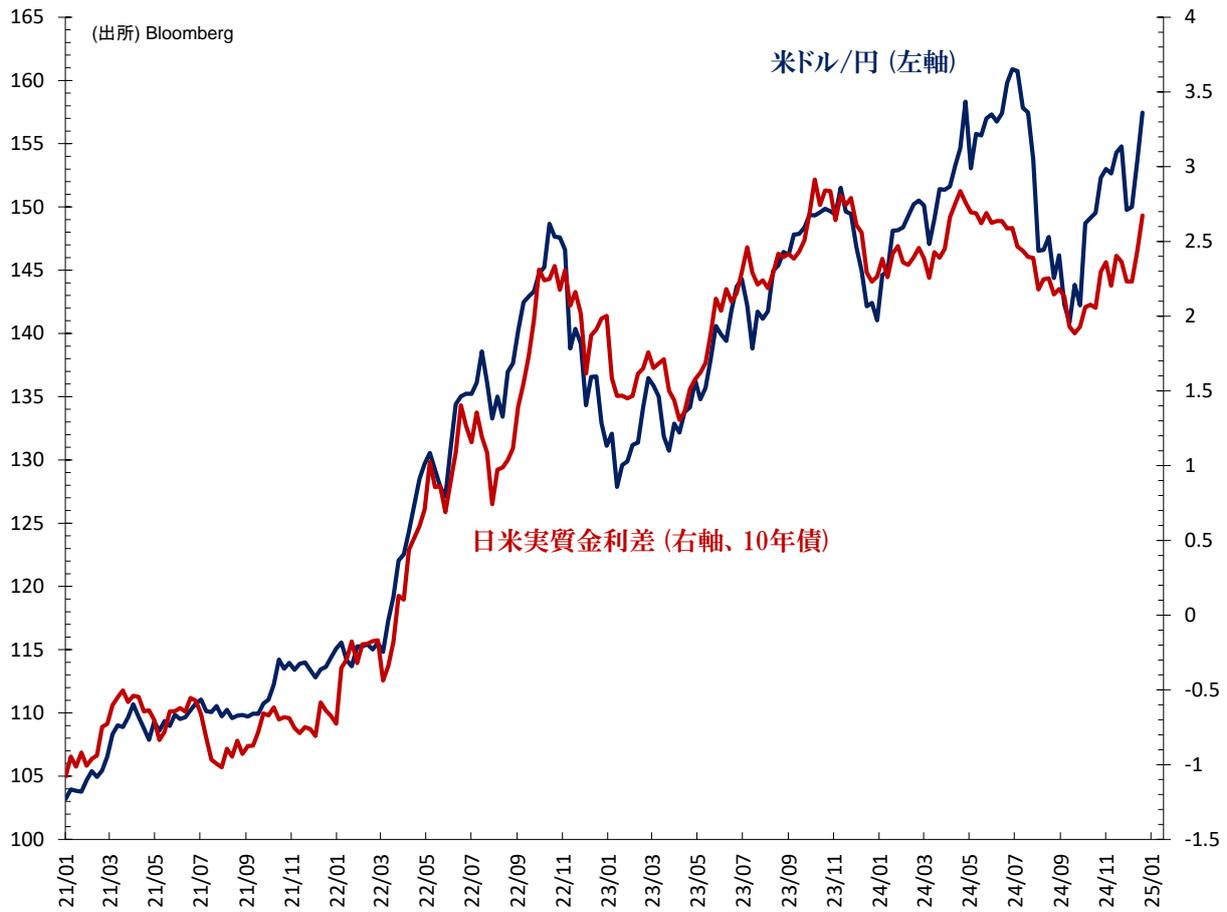
足元、ドル/円は 157 円台後半と 5 カ月ぶり高値を付けています。これは 7 月高値(161.938 円)に次ぐ「二番天井」を付けに行く動き(Ⓑ波)とみられます。

Ⓑ波によるリバウンドは近々終了し、Ⓒ波のドル安・円高に移るでしょう。

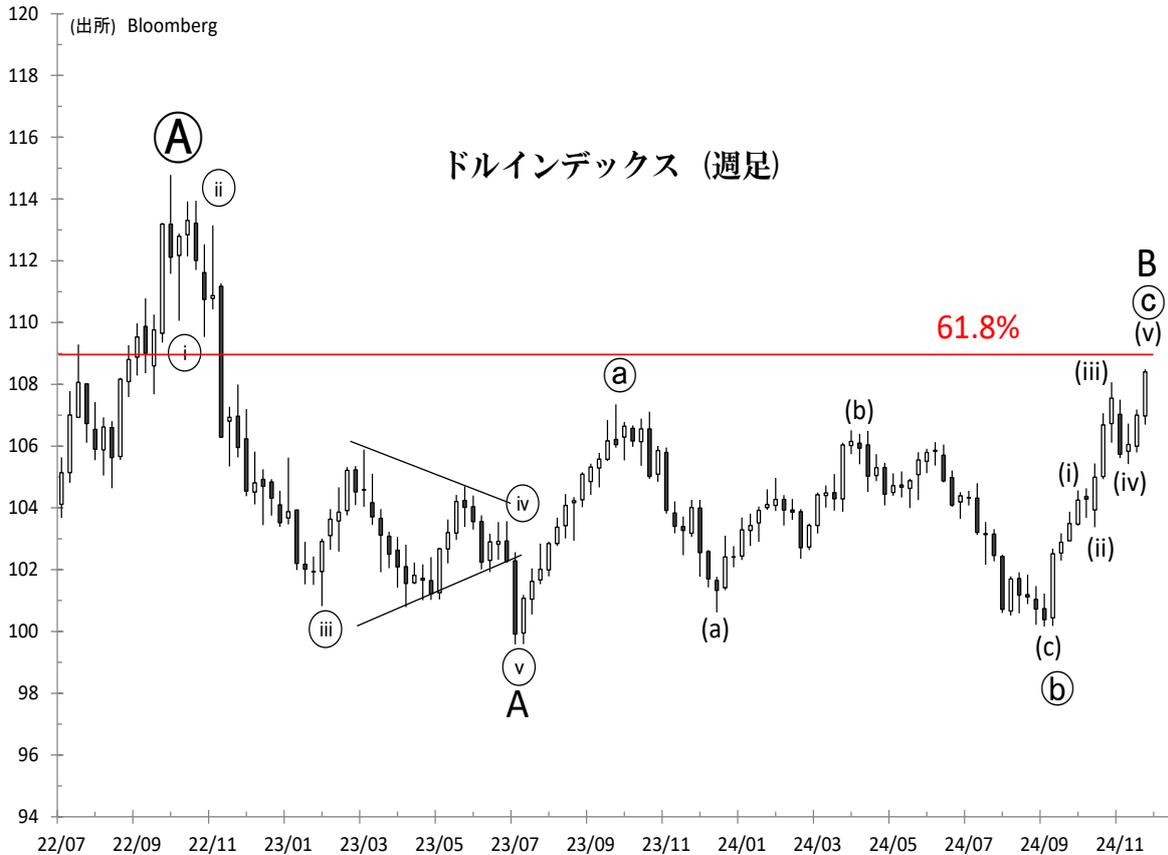
7 月高値を上抜いたときの考え方

もしも 7 月高値(161.938 円)を上抜くようなら、「8 年サイクルの延長」の可能性が考慮されます。

8 年サイクルは、8 年±16 カ月(80 カ月～112 カ月が本来の期間であり、今回のように 15 年 6 月から始まった 8 年サイクルは、本来は 24 年 10 月までに完結するべきものです(この点からも 24 年 7 月は 8 年サイクルに相応しいものです)。しかし 161.938 円を上抜くと—イレギュラーではありますが—8 年サイクルの期間は 10 年(120 カ月)まで延長されることでしょう。つまり 8 年サイクル高値を付けるのは、25 年半ばまでのどこか、と想定されます。



ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

12月19日、一時2年ぶりドル高となりました。これまで108.071(11/22高値)をB波の終点とみていましたが誤りでしたので、**短期的な波動カウントを微調整します。**

100.157(9/27安値)からのB波-ⓐ波は、第(v)波によるドル高をやっているところです。第(v)波の起点は105.420(12/6安値)です。

ドル高が続く場合、[108.972](A波のドル安に対する61.8%戻り水準)が強いレジスタンスになるとみられます。足元、ドル指数はレジスタンスに接近しており、**まもなくドル高が終わるかを注目したい**と思います。

105.420を下抜くと、C波によるドル安入りの最初の手がかりが得られます。

25年はドル安の年になる可能性が高いでしょう。

ひとたびC波によるドル安となれば、それは25年中に23年安値[99.578]を大きく下回るでしょう。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもあります。お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
